

26年2月のカレー物価 1食364円 7カ月ぶり値下がり

3月は363円予想、コメ価格下落が影響
今後は「原油の急騰」による影響注視

「カレーライス物価指数(2026年基準改定)」調査 —2026年2月



本件照会先

飯島 大介(調査担当)
帝国データバンク
東京支社情報統括部
03-5919-9343(直通)
情報統括部:tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

発表日

2026/04/10

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

次回調査の公表予定

2026年3月の発表は
2026年5月8日(金)午前10時

SUMMARY

2026年2月のカレーライス物価平均は1食364円(前年337円)となった。調査開始以降で最高値を更新した前月(370円)からは6円低下し、7カ月ぶりに前月を下回ったほか、2カ月ぶりに360円台で推移した。
2026年3月のカレーライス物価は1食あたり平均363円台で推移する見通し。2025年秋ごろから本格化した「第二次カレーショック」は現状では収束局面へ向かいつつある。

株式会社帝国データバンクは、食卓への影響度を示す「カレーライス物価指数」を独自に試算した。

[注1]カレーライス物価:カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算した指数。

ビーフカレー・ポークカレー・チキンカレー・シーフードカレー・野菜カレーの5メニュー平均値

各種価格データは「小売物価統計調査(総務省)」のうち各都市平均値(全国平均)を参照。調理シーンは「6食分(市販のカレールー1/2パック)をまとめて調理した」とした。

カレーライス物価指数:各月のカレーライス物価を基に、2020年平均=100とした価格推移

[注2]カレーライス物価は2026年1月に調査対象・容量を一部変更し、2015年1月分まで遡及改定を行っている

2026年2月のカレーライス物価:1食 364円 7カ月ぶり値下がり 「コメ価格の下落」恩恵

カレーライスを家庭で調理する際に必要な原材料や水道光熱費などの価格(全国平均)を基に算出し、食卓に与える物価高の影響を可視化した「カレーライス物価(平均、2026年基準改定)」は、2026年2月平均で1食あたり364円となり、10年前(2016年2月:255円)からは109円・約4割高となったほか、前年(2025年2月:337円)からは+27円・8.0%の上昇となった。前年からの値上げ幅が30円を下回るのは、2024年10月以来、1年4カ月ぶり。

また、調査開始以降で最高値を更新した前月(370円)からは6円低下し、7カ月ぶりに前月を下回ったほか、2カ月ぶりに360円台となった。全国の物価の先行指標となる東京都区部の物価動向を基に予想した、前月調査時点の予想値(367円)を3円下回った。

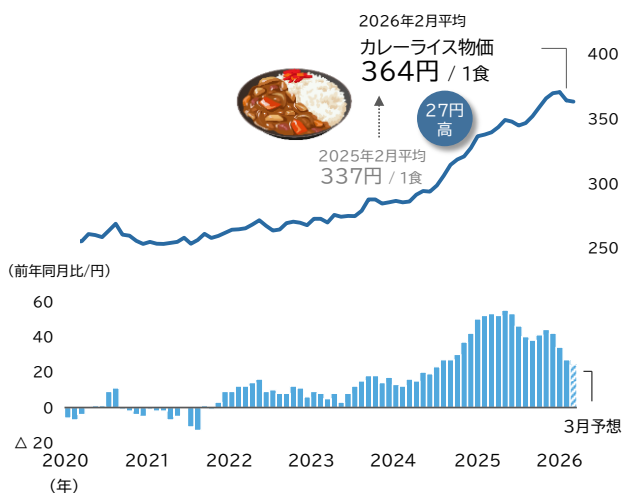
前年同月からの推移では、全メニューで前年を上回った。ただ、メニューによって値上げ幅は異なり、最も値上げ率が高いメニューは「チキンカレー」で、前年から14.0%値上がりした。ただ、20%を超えた2025年12月のほか、30%を超える急ピッチな値上げが続いた2025年6~7月に比べると急激な値上げ傾向から落ち着きつつある。全メニューのうち最も前年からの値上げ幅が小さいのは「野菜カレー」で、前年から+3円・1.1%の上昇にとどまった。

ニンジンやジャガイモ、タマネギなど主要な材料では、前年の高温、少雨の影響を強く受けたことで価格上昇を招いた。特にニンジンでは冬場の低温で出荷量が少なく、平年を大幅に上回る高値が続いた。また、ポークカレーなどで使用する豚肉では、円安による輸入コスト増に加え、北米・ヨーロッパ産で調達価格の高騰が影響した。その結果、輸入豚肉のほか、輸入飼料への依存度が高い国産豚肉でも価格の高止まりが押し上げ要因となった。他方で、2025年の記録的なカレーライス物価上昇をけん引したコメ価格は、特にコシヒカリ原料で2026年以降の値下がり傾向が著しく、全体を強く押し下げた。

各メニューのカレーライス物価平均を基に、2020年平均を基準(100)とした独自算出の「カレーライス物価指数」をみると、2026年2月の指数は140.5だった。

カレーライス物価の動向(月平均、2020年以降)

「カレーライス物価」推移
(月平均推移)



【出所】総務省「小売物価統計調査」を基に帝国データバンク作成
【※】カレーライス物価:カレーライスで使用する原材料や、調理にかかる水道光熱費などを独自に試算した指数

メニュー別「カレーライス物価」
(2025-26年各2月)

各項目	2026年2月	2025年2月	前年同月比
カレーライス物価平均	364円	337円	+27円
ビーフカレー総合	472円	437円	+35円
(内)輸入ビーフカレー	348円	312円	+36円
(内)国産ビーフカレー	596円	561円	+35円
ポークカレー総合	291円	262円	+29円
(内)輸入ポークカレー	244円	216円	+28円
(内)国産ポークカレー	337円	307円	+30円
チキンカレー	228円	200円	+28円
シーフードカレー	523円	497円	+26円
野菜カレー	271円	268円	+3円

今後の見通し：2026年3月＝363円台予想

原油の急騰が食卓に与える影響注視

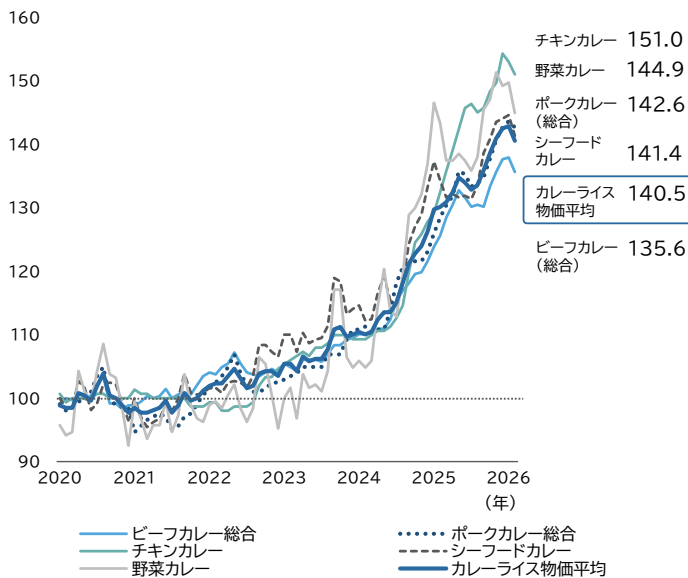
全国の物価の先行指標となる東京都区部の物価動向を基に予想した2026年3月のカレーライス物価は1食あたり平均363円台で推移する見通しとなった。2月から1円低下し、2カ月連続で前月を下回る。また、前年からの値上げ幅は24円(339円→363円)となり、2024年7月以来、1年8カ月ぶりに低い値上げ水準となる見通し。

2025年におけるコメの急激な価格高騰が収束し、コシヒカリ精米5キログラムあたり5000円を大幅に下回る水準が続いていることが、カレーライス物価をはじめ食卓では大きなコスト低下要因となる。カレーライスの主役である基礎野菜では、ニンジンが比較的落ち着きを取り戻しつつあるものの、タマネギなどは前年の記録的な高温と干ばつによる「小玉化(生育不良)」の影響が続き、当面は大幅な高値圏での推移が続く。円安の長期化も、特に安価な鶏肉や豚肉の輸入・飼育コストを押し上げており、今後潜在的な上振れリスクとなる可能性がある。

2025年秋ごろから本格化した「第二次カレーショック」は収束局面へ向かう兆しがみられる。ただ、足元ではイラン情勢の悪化による原油価格の高騰も予見されるなか、さらなる食材高で推移する可能性もあり、食卓における物価高は引き続き予断を許さない状況が続く。

カレーライス物価指数の動向

「カレーライス物価指数」メニュー別推移



消費者物価指数との比較

各項目	2026年2月	前年同月比(%)
総合	112.2	+1.3
生鮮食品を除く総合	111.4	+1.6
食料	129.0	+4.0
生鮮食品	131.8	▲4.5
生鮮食品を除く食料	128.5	+5.7
カレーライス物価指数(帝国データバンク算出)	140.5	+8.0

[出所] 総務省「2020年基準消費者物価指数」(全国、2026年2月)

各メニュー別の具材は、各レシピサイト等を基に下記の通りと定義した(ごはん[ライス]、水道光熱費は共通)

- 【ビーフカレー】牛肉(国産・輸入)・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・食用油・カレールー
- 【ポークカレー】豚肉(国産・輸入)・タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・食用油・ヨーグルト・カレールー
- 【チキンカレー】鶏肉(国産・モモ)・ニンジン・食用油・カレールー
- 【シーフードカレー】エビ・ホタテ貝柱・イカ・ニンジン・トマト・タマネギ・食用油・白ワイン・カレールー
- 【野菜カレー】タマネギ・ジャガイモ・ニンジン・ナス・シメジ・ブロッコリー・食用油・カレールー